



夜な夜な短歌集 第12巻 2017年 秋号

題「燃」

燃える？燃やす？燃やされる？



火曜日は可燃ごみ

あなたへの愛ある日々よさようなら靴の臭いの思い出捨てる

くずでしたわたしの恋はくずでした秋刀魚の骨をちりちりと煮る

新しい歯ブラシ出したもう二度と君のパンツは洗濯しない

ふみ

コンビニのスイーツなんかでなにもかも赦してしまう  
女ごめん

著者近影

燃やせ

チエストプレスは大胸筋を刺激する器具です好きな人はいますか

恋も脂肪も燃やせバランスボールから落下するとき気づく重力

そこまでいうしょうゆらあゆあいらぶゆう痩せたらモテると思ってるのか

ちやありい

短歌、おもしろくないですか？



燃えて欲しいものがある

決心が揺るがないようストックがなくなった日から始める誓い

運動で痩せるのは無理食生活見直すことと著者は言い切る

ブロッコリー人参しめじチンゲン菜 野菜を増やす今更だけど

みちくさ

太く短く燃え尽きる花火のような激情でなく、  
細く長く燃え続ける灯明のように詠み続けられたら



## 炎上案件

プロジェクトとう大波にさらわれてもがけどももがけども景色変わらず

慣性力は強し 眠れなきわれをも満員電車に押しこむ

カルガモは今日も列なし歩みおり 会社なんかは燃えていいのだ

太田青磁 (Sage)

1975年生まれ短歌アンソロジー  
「真砂集」を制作しています。



# 夕焼け

夕焼けのかけらの一つ胸に入れ君は一人で永久へ旅立つ

夕焼けを見つめていれば友思う空に還りたいがぐり頭

赤とんぼ子供のよう群れになり飛んでいくのは夕焼けの国

晴れた日に夕焼けを見るのが好きです。



新地学

# 火ノ木

濃い霧に抱かれ紅葉の焰立つ秘められてなお匂い立ついろ

日を孕む芒の原を風は撫で静かに揺らぐ燠の耀き

降る雪に守られ眠る命らとひとつ布団の埋み火となる

もっと言葉選びのセンスが欲しいのですよ。。。センチメン



てる

理—ことわり—

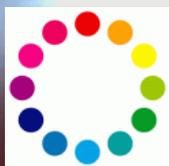
引力にあらず生命のゆるぎにこそ燃ゆる緋色を林檎と呼べり  
いのち

落日に烏一羽の吸ひ込まれ一寸疑つてゐる地動説  
からす ちよつと

太陽の末端衝撃波面へと思ひ巡らし飲むウヰスキー

ワッパ・ワッパ(WPP)

言葉で、目に映るものを違う世界に変えていきたい。  
ゆらぎのような「燃」の気配を感じて欲しい(祈)。



Wavy flame

東京湾にのみこまれるあかい陽が最期に魅せる鮮明ないろ

言わないと暗黙のうち決めていた首すじに触れながら言う、好き

ねむらない不自然な枕にゆれるあいまいな思い出の断片

燃、難しいよ、普段燃えてるのなんて、  
ガスコンロの火ぐらいだもん…。



uncu

## 陽炎

うら若き乙女のような肢体から紅色のぞく微かな仔細

蒼穹に紅き炎が色を差す芥子の勾配かすむ虹彩

惑星が緋紅の落下天翔ける恋の終焉かの日の贖罪

燃え上がるような熱情もいつかは消えてなくなる。  
あなたがいなくても記憶には残り続ける。



masa

パートナー

おやすみと言った後で延びてくるダブルベッドの中の悪い手

起床時間睡眠時間を計算し寝たふりしようかどうかを逡巡

暗がりのかすかな反応悟られてふたりの夜がいつそう濃くなる

プライベート流出！（笑）



レイ

## 紫苑

かお

そんな表情しないで消えていなかったことに私が気付いてしまう

ほとぼりに戸惑いながらしっかりと友情という鎧をまとう

残り火の消えゆくあいだに傷あとは想い出となり証へかわる

雪（永山雪）

今回は苦手とするジャンルに挑戦してみました。  
いや、難しかったです(笑)



## 逸脱

脱獄は好きにどうぞ カンテラは音を立てずに芯をくゆらす

しけている導火線からくぐもった声が命じる 今こそ点けよ

スイッチを入れてしまった贖いはこの身を焦がす紅蓮となりて

momomom(momomom)

あなたの着火剤は、何？



灰かぶりの秘めた熱

やさしくはないけどあつい手にひかれ擦れた心が炎をあげる

群青をそめる朝焼け灰はまだ世界を変える熱をひめてる

幸せは自分で決める12時を過ぎても消えぬ魔法を胸に

古来より「思ひ」は燃やすもの。「恋ひ」は燃えるもの。  
現代ならば、灰は自分で払うもの。



seri

## 燃えさし

あの夏のオレの中にはない熱でTVの中だけやけに眩しく

できなくて届かなくて悔しくてぶつけた感情今はあるかな

押入れは時代時代の情熱の墓場なんだよ開けちゃダメだよ

七色一味

燃える↓秋の連想が止まらず、降ってくるのがかなり  
遅れました。いやーヒヤヒヤ(汗)



## 後夜祭

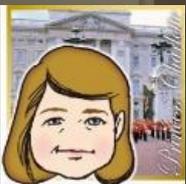
火矢が翔ぶ弧を描きつつコンと鳴く丸太が燃える宴が燃える

燃え上がる炎が姿映し出す女神はぼくの腕に飛び込む

踊ってた歌った笑った二人して燃えカスミたく白く尽きてた

nonたん

アラレちゃんの山車を作って、俺はピースケに仮装して町を練り歩いた。お祭好きな高校だった。



## 残照

自らの手で燃やすことは禁じられ落ち葉焚きとは異界の話

あんなにもたくさん拾ったどんぐりはどこにいったか冬枯れの庭

詰まってるような雑音その後の町内放送突然切れる

燃えるような夕焼けのというイメージでまとめてみました。



テイ

アシク・ケリブ

君と観たパラジャーノフのタイトルを熾火のような記憶に探す

手をつなぐことって案外むずかしい 線香花火が静かに落ちた

明るさは闇の眷属 蠟燭に描かれた花がゆっくりとける

燃のイメージはパラジャーノフの赤い映像。  
でも「アシク・ケリブ」ではなく「さくろの色」だったかも（汗



れいぽ

## 追憶

ふとそばで声が聞こえた気がしたのたゆたう燐寸の香りのせいね

煙草吸う仕草が好きで燐寸箱もてあそびつつ眺めてた頃

暗闇に灯す燐寸のよう今もあなたの言葉は胸に燃えてる

マッチって見なくなりましたね。  
味のある小道具がどんどん少なくなるようです。



h  
a  
n  
a  
k

## 編集後記

夏号のお題は「水」でした。季節が巡る秋。夏にシンクロさせよう、それでも「火」ではつまらないだろう、とお題を決めた編集人の思惑。あっさり&大苦戦と詠み人達の反応は真っ二つでした。そんな詠み人たちの「燃」が読者にどうか飛び火しますように。

そして、毎回歌を寄せてくれるちゃありいとティさんが、新鋭短歌シリーズ第4期にて2019年4月に歌集を刊行することとなりました。このご報告を私がここに書けることは光栄であり、とても喜ばしきことです。

企画・編集・写真 momonga (もも)  
(1,2,3,5,6,9,13,14,18,19,20,21 ページ)  
背景素材 somephoto さま  
(4,7,8,10,11,12,15,16,17 ページ)

夜な夜な短歌集第12巻2017年秋号／2017年10月発行／企画・編集 momonga (もも)

- 当歌集に掲載されている文章・画像等の無断転載はご遠慮下さい。使用する際は、事前に確認していただくようお願いします。歌集の紹介や読書メーターでのレビューは大歓迎です。
- 『夜な夜な短歌コミュ』とは、読書メーターにあるコミュニティです。短歌が好き、短歌を詠みたいというメンバーが集まって交流をしています。みなさんも良かったら一緒に短歌を作ってみませんか？ \*[夜な夜な短歌人による 夜な夜な短歌コミュ](#)をみる